3

# 上海における就学前教育の状況

朱　家雄（華東師範大学学前・特殊教育学院教授）

上海は中国大陸において就学前教育を教育行政管理体制に最も早くから組み入れた都市の１つである。上海市政府は中国大陸においていち早く就学前教育を教育指導の範疇に組み入れ、中国大陸で初となる、短期大学以上の学歴を持つ就学前教育の教師を専門に養成する大学を創設した。上海市の０～６歳児は就学前教育機関で教育を受ける割合が大陸で最も高く、就学前教育の全般的な質も中国大陸において上位に位置している。

## （1）人口の概況

上海市統計局によれば、2004年末の時点で、上海市における常住人口はすでに1,800万人を突破し、人口の規模と密度で中国第１位である。この数値は2003年に比べ約100万上昇している。そのうち外来人口の増加スピードは上海に戸籍を持つ人口をはるかに上回り、およそ４人に１人がここ数年の間に外から来た上海人である。関係資料の分析に基づけば、上海市の人口とその変動の趨勢は以下のようになっている。[1)]

• 今後比較的長い期間において、上海の人口の自然変動における減少傾向あるいは増加傾向は変わらないが、人口の移動と外からの流入人口の影響を受けて、総人口は引き続き増加するであろう。

• 人口の出生水準の低下はすでに極限に近づいており、連続11年間、人口の自然変動の減少が続いている。上海は2004年９月から計画出産政策の微調整を開始し、「第２子」を出産することに対する制限を緩和している。このため、将来の出生水準は次第にいくらか回復するであろう。目下、上海で最も第２子を望んでいる人たちは２つのタイプに分かれる。１つのタイプは学歴も収入も高い「２高」の人たちであり、もう１つのタイプは、社会の低層の人たちである。

• 上海は全国で最も人口密度が高い都市であり、10年間で１平方キロメートルあたりの人口は484人増え、「求心型」分布を示している。

• 人口の老齢（60歳以上）化と高齢（80歳以上）化の圧力に直面している。上海市の戸籍を持つ人口の中で65歳以上の老人は総人口の14.9％を占め、その総数はすでに450万人を超えている。

• 流動人口の数と比重が上昇し、2003年、省外や市外から流入し半年以上居住する流動人口は、長江デルタ地区の中で最も多くなっている。外からの流入人口の年齢が比較的若いため、ある程度、上海の人口の老齢化問題を緩和している。

• 人口の文化的教養水準は大きく向上しており、北京に次いで高い。だが、先進国と比較するとまだ大きい差が存在する。

### （2）就学前教育の管理体制

上海にはすでに整った就学前教育の管理網ができ上がっている。上海市教育委員会基礎教育処は、全市の就学前教育事業の発展を調整する当局の機関であって、全市の就学前教育に対するマクロ的な管理を実施している。

社会の発展および就学前教育を重視する傾向が高まるにしたがって、1997年から、上海では、教育行政機関が０～６歳児の教育を主管し、衛生機関が0～６歳児の保健衛生に責任を持つという管理の枠組みが実行されて、年齢別に複数の役所が管理するという従来の状況が改められた。それに応じて、上海市管轄の各区（県）でも相応する就学前教育管理網が構築された。

上海市の就学前教育では、国家、地方、幼児園の３重管理が行われている。そのうち、国家レベルでは、教育部が2001年に公布した『幼児園教育指導綱要』と国務院が2001年５月22日に公布した『中国児童発展綱要』などが指導文書となっている。地方レベルの指導文書は上海市教育委員会が編制した『上海市就学前教育綱要』などである。2004年９月、上海市教育委員会は『上海市就学前教育課程指南（試行稿）』（略称『指南』）を公布し、「幼児を主体に」の理念を提唱し、この『指南』を全市の幼児園で全面的に試行した。これは幼児園カリキュラムの指導的文書になっていて、幼児園のカリキュラム改革が新しい段階を迎えていることを示すものである。

### （3）就学前教育機関における教育

経営形態の面では、上海の就学前教育は目下のところ、主に教育機関による経営を主体とし、それを規範にして、社会による経営（すなわち地域、企業、個人）がそれを補うという幼児園経営の体制が採られていて、社会各層のニーズを満たす多階層、多構造、多モデル、多タイプの就学前教育体制が形成されている。全市2,000か所あまりの幼児園と託児所の中で、教育機関が経営している幼児園が72.9％を占め、社会による経営が27.1％を占める。在園幼児の数は約27万人である。

また、上海市政治協商会議の最新の情報によると、郊外地区の県や人口導入が進む区や地域の中心となる鎮（村）において就学前幼児の大量流入と外来流入人口の大量の増加により、2006年からの５年間で、上海市で就学前教育を受ける幼児は現在の27万人から40万人以上に増加するとみられ、新たに大量の託児所や幼児園が必要になると予想されている。[2)]

上海の就学前教育機関は一般に、年齢によって分けられている。０～２歳の乳幼児に対して教育を実施する機関を託児所とし、３～６歳の幼児に対し教育を行う機関を幼児園と呼ぶ。幼児園は３年制で、全日制、寄宿制、半日制、部分時間制など多くのタイプがあるが、全日制が多い。

近年来、０～６歳の就学前の乳幼児に対する保育・教育一体化の流れにしたがい、託児所と幼児園が一体化した教育機関が出現し、２歳以上の幼児を受け入れている。一部の幼児園はさらに親子学園、保護者学級などの形態で、０～３歳児とその保護者たちにサービスを提供している。

このほか、ここ数年、就学前教育機関と地域教育や地域サービスが融合する傾向が現れている。現在、上海市管轄の多くの区でそれに相応する就学前教育センターがつくられ、専門の職員が配置されて０～３歳の乳幼児とその保護者のニーズをより重層的に満たし、０～３歳の乳幼児の教育を受ける割合を高めることに力が入れられている。当然ながら、地域を基盤とするこのような育児サービスには、さらに改善や整備の必要がある。

【注】
1）http://sh.sohu.com/20050106/n223808710.shtml
2）「新聞晨報」（2005年７月20日 都市時政版）

**＜中国の基礎データ＞**

◆合計特殊出生率 1.83（2000年～2005年の平均）（「平成17年版・少子化社会白書」内閣府）

◆幼児園（３～５歳）の就園率

北京：87.9%（「北京市教育事業統計年報」2004）

上海：99.9%（「2004年上海市教育工作年報」）

◆進学率

上海の大学の粗進学率（2005年）：57%

（http://www.shmec.gov.cn/web/jyzt/jyzt_show.php?article_id=25854

「2005年上海市教育工作年報」）

北京の大学進学率（2005年）：75.3%

（http://www.bjedu.gov.cn/bjedu/77701391518269440/20060111/20271.shtml

「2005年北京教育事業発展概況」）

＊高校卒業生を分母に算出。

◆平均年収　全国：10,870元、北京：19,155元、上海：21,781元（「中国統計摘要」国家統計局編 2002）

＊数値は2001年のものである。